

第2学年A組 技術・家庭科学習指導案

1 題材 「日常着の手入りに挑戦！」

2 指導観

○ わたしたちの生活は物質的に豊かになり、様々なデザインや材質・色の衣服が店先に並んでおり安価で手軽に購入できる。衣服は着用によって汚れが付着し、しわや型くずれを生じるが、洗濯や仕上げなどの手入れを適切に行うことによって、その性能や価値を長く持続することができる。衣服を快適に着用するためには、洗濯、しみ抜きなどの手入れや補修が必要である。しかし、現代の家庭では、女性の社会進出、共働きなどにより家事時間が短縮・機械化されている。洗濯機や乾燥機の普及や進化により、スイッチひとつで洗濯ができるたり、形状記憶タイプの衣類の登場やタオルハンカチの登場などでアイロンをかけることも少なくなった。ミシンやアイロンのない家庭も見られる。

以上のように、中学生の時期は流行やデザイン、他の人に移る自分の姿を意識して、衣服を購入するものの、衣服の手入れや補修については親任せのことが多く無関心な傾向にある。本題材では、目標設定力の定着を図りながら、特に日常着の手入れに関する基礎的な技能や知識を身につけさせることをねらいとしている。学習内容としては、衣服の手入れの必要性、衣服材料の性質、衣服材料や汚れに応じた手入れの仕方、目的に応じた補修の仕方（まつり縫いやスナップ付けの仕方）、ランチョンマットの製作などがある。実験や実習を取り入れ多くの体験をさせ、繰り返しの学習で生活観察力を育てて、自ら主体的に学んでいく姿勢を育てていきたい。このような学習を通して、衣服材料や汚れの度合いに応じた手入れと適切な補修を自らの手でできるようにすることは、健康で快適な衣生活を主体的に送っていく上で意義深いと考える。

○ 生徒はこれまでに、小学校家庭科でボタン付けや、並縫いの仕方、手洗いによる洗濯について、中学校2年では、衣服のはたらきや選択の仕方について学習している。衣服の選択の学習では、本学級の生徒たちも購入の際に重要視するものとして、デザインや流行を上位にあげるものが多く、手入れのことを考えて購入した経験をもつ生徒はほんのわずかであった。これは、実生活の衣服管理においては自分の衣類を自分で洗濯する機会は少なくなっている実態が伺える。

また、事前調査を行ったところ、「しみ抜き」や「ほころび直し」を自分でしたことのない生徒が82%、ボタン付けやスナップ付けなどを含め、自分で手入れや補修をしたことがある生徒は全体の74%であった。制服の名札を自分で縫い付けた生徒は34%、体操服のゼッケンを自分で縫い付けた生徒は30%であった。洗濯についてもしたことがない生徒が51%もいた。日常着の手入れや補修が必要なのは分かっているものの、実生活ではほとんどが親任せで自分では行っていないということが、実態として考えられる。その理由として、「親がいつの間にかしてしてくれる。」や「自分ですると時間がかかり、うまくできない。」「親の方がきれい」と答えている。しかし、「自分でできるようになりたい」とか「自分でできないと困る」と思っている生徒も半数はいる。ゼッケンを自分で付けた生徒の中には2時間もかかったというものもいた。やはり、針をもつことに慣れ親しんでいない実態が考えられる。

○ 指導にあたっては、「縫う」ことに対する苦手意識を取り払い、めんどくさいや時間がかかるという思いを少しでもなくしていくことで、補修の技能を高めるとともに、自分でやろうという意識を育てたい。少しでも針をもつ機会を多く与え、時間を切って取り組ませることで、緊張感をもたせ、練習意欲をかき立てて、集中して少しでも手早く作業できるようにし向けていく。自分の技能レベルを確認し、スモールステップの原理に基づき、目標を決めて、練習するという繰り返しの学習に取り組ませることで、生徒に練習意欲をわかせる、達成感をもたせるとともに目標設定力を育てていく。最後に作品を仕上げることを目標に技能の定着を図りたい。

そこでまず衣服材料については、中学生が日常着として着用する綿、毛、ポリエステルなどを取り上げ、しみ抜きの実習を通して繊維の性質の違いや手入れの仕方の違いに気付かせる。繊維の性質の実験ビデオを活用して、丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など、手入れに関わる性質や衣服材料に応じた手入れの違いを理解させたい。補修については、まつり縫いやスナップ付けを取り上げ、正しい縫い方を身につけさせ、目的に応じた補修が実践できるようにする。そのために、本題材のはじめに学習プリントを見ながらまつり縫いやスナップ付けをやってみる時間を設け、ステップ表を活用し、自己を振り返らせ、本題材での個人目標を明確にもたせたい。次に、教師の師範や写真の手本、グループでの助け合い学習を通じて、まつり縫いやスナップ付けの正しい方法をマスターさせたい。ここでは、まつり縫いやスナップ付けの技能を練習する時間やカルテを作成する時間を確保する。そのことで、生徒の針

に親しむ回数を増やし，短時間に集中して練習する姿勢を育てるとともに技能の上達を図る。また，知識面を定着させるための小テストの時間を設ける。さらに，補修に必要な技能を生かしてランチョンマットを製作させる。ここでは，まつり縫いとスナップ付けを中心に製作させ，刺し子糸を用いて自分なりの図案を刺繍させる。仕上げにはアイロンかけを経験させる。できあがったランチョンマットは次の題材「郷土料理に・・・」や給食時に活用させたい。最後に，できあがったランチョンマットを相互評価し，いらなくなった衣服の活用などこれからの衣生活について考えさせていく。

3 目 標

- 自分の衣生活を見直し，衣服の手入れや補修に関心を持ち，実習や実践に意欲的に取組もうとする。
- 基礎縫いを生かし，自分なりに小物づくりを工夫することができる。
- 衣服材料や汚れに応じた手入れや目的に応じた補修ができる。
- 衣服材料や汚れに応じた手入れの違いや補修の目的と布地に適した方法を説明することができる。

4 計 画（8時間）

- 第一次 自分の衣生活について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 1 自分の衣生活を振り返り，衣服の手入れや補修に必要な知識や技能について知る・・・・・・・・（1）
 - ・衣服の手入れや補修の必要性，スキルアップ表
 - ・診断カード1（まつり縫い，スナップ付け）
 - 2 レベルアップの目標を決め，まつり縫いやスナップ付けの練習をする・・・・・・・・・・・・・・・・（1）
 - ・まつり縫い，スナップ付け
 - 3 しみ抜きの実習を通して，衣服材料や汚れに応じた手入れの仕方があることに気付く・・・・・・・・（1）
 - ・しみ抜き実習
 - ・衣服材料の種類と性質，衣服材料や汚れに応じた手入れの仕方と洗濯
- 第二次 衣服の手入れに関する課題をつかみ実践しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 衣服の手入れや補修の実践目標およびレベルアップ目標を決める—————（1）
 - ・診断カード2，「日常着の手入れ」小テスト1
 - ・「日常着の手入れ」に関する夏休みの実践計画
 【課外】 実践計画や練習計画に従って実践や練習を行う
 - 5 衣服の手入れと補修の実践を発表し合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1）
 - ・診断カード3，「衣服の手入れ」に関する小テスト2
 - ・夏休みの実践の発表と相互評価
- 第三次 衣服の補修の技能を活用し，オリジナルランチマットを製作しよう・・・・・・・・・・ 2
- 6 ランチマットを作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2）
 - ・オリジナルランチマットの計画と製作
 - ・オリジナルランチマットの仕上げと評価
- 第四次 これからの衣生活について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 8 これからの衣生活について考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（1）

5 本 時 平成17年7月13日（水） 第5校時 計画第二次1／2 2年A組の教室にて

（1）本時の指導観

前時までには生徒は，衣服の手入れや補修の必要性に気づき，まつり縫いやスナップ付けの練習を重ねてきている。また，しみ抜きの実習を通しやビデオ「糸の性質を知ろう」を視聴し，衣服材料の性質や汚れに応じた手入れの仕方を学んでいる。

そこで本時では，これまでの学習を生かし家庭での実践につなげることをねらいとする。そのためにまず，しみ抜き自

習プリントを提示しながら，前時までの学習を振り返り，めあてを確認させる。次に，自分の今の知識や技能を小テストをしたり，まつり縫いとスナップ付けの技能の診断カルテを作成させ，客観的に認識させる。さらに，夏休み中の家庭での「日常着の手入れと補修」に関する実践目標やレベルアップ目標を決めさせる。ここでは，ステップ表やスモールステップ表を活用させ，より具体的な目標を設定できるようにするとともに，意見交換を行わせ，より自分にあった目標を設定できるようにする。最後に，本時のまとめを行い次時の予告を知らせる。

(2) 主眼

- 「日常着の手入れ」に関する知識や技能を客観的に捉えることができる。
- 日常着の手入れの具体的な実践目標を設定し，洗濯や補修のための計画を立てることができる。

(3) 準備

- ①実験の写真 ②小テストと模範解答 ③診断カード ④スキルアップ表 ⑤レベル診断表 ⑥課題プリント

(4) 過程

学習活動・内容	資料・教具	留意点	形態	配時
1 前時の学習を振り返り，本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 日常着の手入れに関する実践目標やレベルアップ目標を決めよう。 </div>	①	○綿，ポリエステル，毛について洗濯に関わる性質を取り上げ，質問するなど前時までの学習を振り返らせる。	一斉	5
2 「日常着の手入れ」に関する知識や技能を確認する。 (1) 小テスト1「日常着の手入れ」 ・洗濯や補修などの必要性和繊維の性質 (2) 診断カード2の作成 ・まつり縫い ・スナップ付け	②③	○衣服の手入れの必要性や繊維の性質に関する小テストを行い知識を確認させる。 ○診断カード2を作らせ自分の技能を確認させる。活動の様子をチェックし，個別指導に生かす。 ◇「日常着の手入れ」に関する知識や技能を客観的に捉えることができたか。 〈知①②：小テスト〉	個	15
3 「日常着の手入れ」に関する夏休みの実践目標やレベルアップ目標を決め，計画を立てる。 (1)「日常着の手入れ」に関する夏休みの実践計画 ・洗たく実習 ・しみ抜き実習 ・補修など (2) 技能のレベルアップ練習計画 ・まつり縫い ・スナップ付け など	④⑤⑥	○スキルアップ表やレベル診断表を活用させ，実践可能な洗濯やしみ抜き，補修などの実践目標とまつり縫いやスナップ付けのレベルアップ目標を具体的に決めさせる。個別指導し助言する。 ○グループ内で自分の実践計画を発表させ，お互いのよさや気づきをアドバイスさせあう。 ◇洗濯や補修のための計画を具体的に立てることができたか。 〈技③：実践計画プリント分析〉	個 ↓ 小集団	25
4 本時のまとめと次時の予告を聞く。		○自分で家庭実践することや友達の実践を共有することは，自分の衣生活を豊かにすることにつながることを確認する。	一斉	5

第2学年「衣服の手入れや補修に挑戦！！」評価規準表

関：関心・意欲・態度 工：工夫・創造 技：生活の技能 知：知識・理解

配時	学習活動・内容	評価規準 (評価方法)	具体の評価規準	
			十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)
1 気付く	1 自分の衣生活を振り返り、衣服の手入れや補修に必要な技能について知る。 ・スキルアップ表 ・補修に必要な技能の実習(スナップ付け，まつり縫い) ・診断カード1の作成	知①：洗濯，しみ抜きなど手入れや補修の必要性に気付く。 〈診断カード1〉 関：まつり縫いや，スナップ付けをマスターしようとする。 〈活動チェック，キラリ発見シート分析〉	・快適な衣生活を送るために洗濯や補修が必要であることに気づいている。	・清潔な衣服を着用するために洗濯や補修が必要であることに気づいている。
			・やり方を確認したり，何度も繰り返したりしながらまつり縫いやスナップ付けの練習に取り組んでいる。 ・まつり縫いやスナップ付けをできるようになりたいと記述している。	
2 見通す	2 レベルアップの目標をたてまつり縫いや，スナップ付けの練習をする。 ・まつり縫い，スナップ付けの方法	関：自分のレベルアップ目標を立て，まつり縫いや，スナップ付けをマスターしようとする。 〈活動チェック，キラリ発見シート分析，学習プリントチェック〉	・自分のレベルアップの目標を具体的に立て，生活に生かしたいと記述している。 ・意欲的にまつり縫いやスナップ付けを行っている。	
			3 しみ抜き実習を通して，衣服材料や汚れに応じた手入れの仕方があることに気付く。 ・しみ抜き実習 ・衣服材料の種類と性質 ・衣服材料や汚れに応じた手入れの仕方と洗濯	関：しみ抜きを通して日常着の手入れに取り組もうとする。 〈プリント分析〉 技：正しくしみ抜きができる。 〈活動チェック，キラリ発見シート分析〉 知②：手入れにかかわる繊維の性質や衣服材料に応じた手入れの違いを理解する。 〈学習プリント分析，小テスト定期考査〉
・しみを広げないようにしてしみ抜きができる。 ・教科書やビデオの実験などをもとに繊維の性質や汚れによって手入れの方法が違うことを具体的にまとめている。	・綿・毛・ポリエステル等の性質を教科書をもとにまとめ，繊維や汚れによって手入れの方法が違うことに気付いている。			
1 さぐる	4 衣服の手入れと補修の実践目標およびレベルアップ目標を決め，実践および練習計画を立てる。 ・診断カード2の作成 ・「衣服の手入れ」小テスト1 ・夏休みの実践目標と計画 ・意見交換および相互評価	技：洗濯や補修のための計画を具体的に立てることができる。 〈実践計画プリント分析〉 知①，②〈小テスト〉	・衣服材料や汚れ，目的に応じた手入れの仕方や補修の方法を，手順を考えて，具体的に計画を立てている。 ・正答率75%以上	・教師や友だちのアドバイスを受けて，衣服材料や汚れ，目的に応じた手入れの仕方や補修の方法を選び，具体的に計画を立てている ・正答率50%以上
			課外 実践目標や練習計画に従って，衣服の手入れと補修の実践や練習を行う。 ・家庭での実践および練習	関：家庭実践に取り組んでいる。 〈レポート分析〉
1 まとめる	5 衣服の手入れと補修の実践を発表しあう。 ・診断カード3 ・「衣服の手入れ」小テスト2 ・夏休みの実践の発表と相互評価	技：衣服の材料や汚れ，目的に応じた適切な洗濯や補修の仕方をすることができる。 〈実践レポート，相互評価分析〉 知①，②〈小テスト〉	・家庭での実践を行い，よりよい方法や手順を考えて計画の変更などを行っている。 ・正答率80%以上	・計画に従って，家庭での実践を行っている。 ・正答率55%以上
			6 オリジナルランチョンマットを作ろう。(次の題材で活用する。) ・ランチョンマットの計画と製作 ・ランチョンマットの仕上げ ・自己評価と相互評価	工：基礎縫いを活用し，ランチョンマットを，工夫しながら製作している。 〈活動チェック，生徒作品，自己評価〉 技：まつり縫いやスナップ付けが正しくできる。 〈活動チェック，生徒の作品〉
3 生かす	7 これからの衣生活について考える。 ・いらなくなった衣服の活用 ・これからの衣生活	工：いらなくなった衣服の活用を実生活に生かせるよう工夫する。 〈学習プリント分析〉 関：学んだことを生かして，環境を考えた衣生活を送ろうとする。 〈学習プリント分析〉		